様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25　年　6　月　10　日現在

機関番号：32632
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2010～2012
課題番号：22520197
研究課題名（和文）　軍記文学における〈中央〉と〈地方〉に関する多角的研究

研究課題名（英文）　Diversified research on 〈center〉 and〈 district〉 in the war literatures

研究代表者
清水由美子　（SHIMIZU　YUMIKO）
清泉女子大学文学部講師
研究者番号：40424303

研究成果の概要（和文）：10 世紀ごろに〈地方〉で発生した武士が、12、3 世紀にいたって京都や鎌倉で政権の座につくまでを記述した各軍記文学作品を〈中央〉と〈地方〉という観点を基軸にすえて多角的に検討した結果、征夷・辺境・国境・婚姻・氏族・情報の伝播など、様々な面で、多様に〈中央〉と〈地方〉の間の関わりが語られており、ある時は反発し合い、ある時は引き合う様相が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：As a result of approach some of the war literatures, which gives a picture of the military class, which occurred at 〈district〉 in 10th century and got into power in 12th~13th century at Kyoto and Kamakura, we could make it clear, that in the war literatures, 〈center〉 and〈district〉 sometimes opposed each other, and sometimes pulled against each other, about many sides, the barbarian-quelling, a frontier, a national border, the marriage, the family, the propagation of the information.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2010 年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 2011 年度 | 600,000 | 180,000 | 780,000 |
| 2012 年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 1,600,000 | 480,000 | 2,080,000 |

研究分野：
科研費の分科・細目：文学・日本文学
キーワード：中世文学、軍記文学、平家物語、保元物語、将門記、中央、地方、辺境

１．研究開始当初の背景

（1）本研究は、平成 19 年度～平成 21 年度科学研究費補助金　基盤研究（C）　研究課題番号：19520133「『源平闘諍録』を基軸とした古代中世東国をめぐる軍記文学の基礎的研究」（以下、前研究課題とする）の成果を踏まえ、そこで新たに析出された問題点を深化・拡大させ、発展的に追究することを目的とするものである。前研究課題では、『源平闘諍録』本文の分析を踏まえて、該本の成立、歴史叙述・認識のあり方、さらに「東国」の地域性をめぐる問題を考察した。研究代表者・清水由美子は、これに先立って、「読み本系『平家物語』の方法―州崎神社参詣譚と八幡託宣和歌をめぐって―」(『古代中世文学論考』第 12 集　新典社　2004　254～277 頁)、「将門を射た神の名―都の論理と東国の論理」(『国語と国文学』第 82 巻 8 号　2005　16～27 頁)において、中央の王権（天皇体制）に対する独自な姿勢や距離を、四部合戦状本

『平家物語』、『将門記』それぞれから読みとったが、前研究課題の取り組みから東国には東国なりの、中央王権とは別の政治イデオロギーが存在するのではないかという点に関して更に追究することの必要性に思い至った。

（2）現在における軍記文学研究の動向は、作品毎に個別に論ずる傾向が強く、ある種の閉塞的状況に陥っていると言わなければならない。複数の作品を包括的に捉え、俯瞰的な視点から軍記文学としての特質を把捉することが求められる。そこで本研究では、軍記文学の起点となる『将門記』から『陸奥話記』・『奥州後三年記』を経て、古代末期から中世初頭に至る転換期の政治的・軍事的状況を正面から描き出す『保元物語』・『平治物語』・『平家物語』・『承久記』の諸作品について、〈中央〉と〈地方〉の関係の孕む問題という観点からそうした軍記文学の特質の一端を抽出することを目指す。〈中央〉から遠心的に離反する方向にむかって動こうとする〈地方〉の動向と、都という〈中央〉に向かって憧憬的に、あるいは欲望的、求心的に引き寄せされようとする二つの相反するベクトルの力学的なせめぎ合いは、軍記文学の始発期以来、瞭然として看取される。〈地方〉にとって〈中央〉とは如何なるものであったか、〈中央〉にとって〈地方〉とはいかなる存在であったか。〈中央〉〈地方〉それぞれの考察とともに、両者の関係性にかかわる問題は軍記文学にとっての不可避な研究課題であると考えた。

（3）研究代表者・清水は、「四部合戦状本『平家物語』の和歌―失われかけた独自和歌の背景」（『東京大学国文学論集』第 1 号　2006　111～127 頁）、「真字本における和歌表記について―四部合戦状本『平家物語』と『源平闘諍録』を中心に」（平成 16 年度～18 年度科学研究費補助金　基盤研究（C）　課題番号：16520112　研究成果報告書『汎諸本論構築のための基礎的研究―時代・ジャンル・享受を交差して―』　2007　84～93 頁）において、四部合戦状本と『闘諍録』という真字表記の平家物語異本に関して、特にその和歌表記のあり方に着目して考察し、その結果、真字の本文の中に和歌を記入する方法の変遷を追うことができたが、逆に、そうした工夫をしてまで真字表記に拘る姿勢も浮き上がった。この両本が東国との関わりが深いとされることから、真字表記に拘る姿勢が東国という地方独自の特徴と言えるかどうかの解明も看過できない課題であると考えた。真字表記の問題は、地方文化圏の実態の把握、そして軍記文学の成立圏あるいは成立過程の解明に通じるものであるが、軍記文学をめぐる真字表記自体に関する研究状況は十分に進展しているとは言いがたい。国語学の分野での研究成果も援用し、関連作品（妙本寺本『曾我物語』や『神道集』など）との対照のもとに表現形態の基礎的分析が要請される。

（4）当課題には、成立問題にもつながるものとして、思想・信仰圏にかかわる問題がある。源健一郎「源平闘諍録と関東天台」（『軍記と語り物』第 41 号　2005　47～48 頁）、「千葉妙見の本体・本地説―源平闘諍録と千葉妙見関係資料との間―」（『巡礼記研究』第３集　2006　67～85 頁）などで『闘諍録』における関東天台と妙見信仰とのかかわりについては論じられてきたが、例えば、『闘諍録』成立をめぐってその関係性が指摘される延慶本『平家物語』の管理圏―真言圏の関東における状況や中央との交流については未だ手つかずと思われる状況である。このような寺院ネットワークに関しても、さらに視野を広げ、軍記文学全体の成立の背景となる歴史的、宗教的な様相についての実態を把握する必要がある。さらに、治承・寿永の乱の一つの結末としての鎌倉幕府の成立は、上述の〈地方〉と〈中央〉との間に繰り広げられてきた求心化と遠心化との牽引・離反の力学が一つの到達点を迎えたことを意味すると言えよう。従って、その力学の本質的な解明には、軍記文学始発以来の作品の内外における武士団の系譜と動向について、前研究課題での成果を踏まえつつ、通史的に確認することが必要であると考える。

（5）研究分担者・栃木孝惟は『軍記物語形成史序説』（岩波書店　2002　全 451 頁）に収められている『将門記』・『保元物語』に関する諸論考にもその一端が示されるように、軍記文学史における〈中央〉と〈地方〉（東国・鎮西）をめぐる問題の解明の重要性を認識している。また、分担研究者・小番達は、「延慶本平家物語における天神信仰関連記事をめぐって―第四・六「安楽寺由来事付霊験無双事」形成過程の一端―」（中世文学会『中世文学』第 53 号　2008　68～76 頁）などをはじめ、軍記文学の成立に関わる思想的背景に強い関心を持っている。

（6）本研究の参画メンバーは長期にわたって共同研究に取り組み、『平家物語の成立』『続・平家物語の成立』『続々・平家物語の成立』（いずれも、千葉大学大学院社会文化研究学科プロジェクト報告書 1997、2004、2007）を刊行し、さらに『校訂延慶本平家物語一～十二』及び『校訂延慶本平家物語の世界』（いずれも汲古書院、2000～2009）の刊行に携わり、その意義と成果については一定の評価を受けている（『軍記と語り物』第 42 号　2006　「研究展望」118～128 頁）。

２．研究の目的

10 世紀半ばから 13 世紀初めに至る政治的、軍事的状況を正面から採り上げ、文学として

形象化した軍記文学が、軍記文学の一つの核心的なテーマとして重要な問題性を孕む〈中央〉と〈地方〉というものの実態、さらに、両者の関係性をどのように表現しているか、あるいは問題化しているか、その様相を考察し、多角的な視点から古代・中世における〈中央〉と〈地方〉の問題の一角を解明しようとするものである。

３．研究の方法

（1）一年に一度、各地方における軍記文学の成立や流布に関して研究実績のある研究者を招聘して公開での講演会を開催し、多数の参加を得た。

平成 22 年　元三重県立桑名西高等学校教諭谷口耕一氏「軍記文学にとっての紀伊国」

平成 23 年度　東北大学教授佐倉由泰氏「軍記文学と東海道―鎌倉という点に着目して」

平成 24 年　鹿児島国際大学教授野中哲照氏「〈中央〉と〈地方〉と〈辺境〉（東山道編）

（2）それぞれに先だって、月例の研究会において、各軍記作品からのそれぞれの地方に関わる問題点や、先行研究の抽出、及び、発表者の研究に関する勉強会を開催した。具体的な研究会開催記録は以下の通り。

平成 22 年

11 月 26 日　軍記文学における南海道関連記事についての報告

12 月 10 日　谷口耕一論文の輪読

平成 23 年

1 月 30 日　公開講演会　（於　学士会館）
谷口耕一氏
「軍記文学にとっての紀伊国」

3 月 11 日　軍記文学における東海道関連記事についての報告

5 月 7 日　軍記文学における東海道関連記事についての報告

6 月 20 日　佐倉由泰『軍記物語の機構』輪読その一

7 月 30 日　佐倉由泰『軍記物語の機構』輪読その二

8 月 30 日　軍記文学における鎌倉関連記事についての報告

9 月 11 日　公開講演会　（於　学士会館）
佐倉由泰氏
「軍記文学と東海道―鎌倉という点に着目して」

11 月 12 日　軍記文学における東山道関連記事についての報告

平成 24 年

1 月 7 日　軍記文学における東山道関連記事についての報告

3 月 3 日　軍記文学における東山道関連記事についての報告

5 月 12 日　軍記文学における東山道関連記事についての報告

6 月 10 日　野中哲照論文の検証

7 月 1 日　野中論文輪読

7 月 29 日　公開講演会　（於　学士会館）
野中哲照氏
「〈中央〉と〈地方〉と〈辺境〉（東山道編）」

9 月 9 日　軍記文学における西海道関連記事についての報告

10 月 6 日　軍記文学における「鬼界島」関連記事に関する報告

12 月 1 日　研究発表
高山「平家序章における〈中央〉〈地方〉の問題―なぜ源義親か―」
谷口「八帖本平家物語と地蔵院経蔵の行方―八帖本平家物語周辺の人々における東西交流―」
小番「『平家物語』における鬼界島関連記事―〈周縁〉に対する二つの捉え方―」

平成 25 年

1 月 12 日　研究発表
清水「初期軍記における女性関記事―『将門記』の女論を中心に―」
栃木「源為朝における〈中央〉と〈地方〉―半井本『保元物語』における為朝問題の考察―」

４．研究成果

（1）研究代表者・研究分担者・研究協力者それぞれの個別の成果は、平成 24 年 12 月 1 日と、平成 25 年 1 月 11 日の研究発表題目にあるとおりである。各自のこれまでの取り組みや関心に応じて、それぞれ「〈中央〉と〈地方〉」という観点から、様々な考察がなされた。主に、・武士の婚姻を中心とした、地方での武家の動静や、地方出身の武士の都での活動や地元との関わりの問題、・平家物語異本の地方での伝播・管理の問題、・地方で起こった事件に関する都での情報にまつわる問題、・国境にまつわる問題などに関わった研究となってまとまり、報告書に於いて公表することとなった。

（2）公開講演会を契機に、〈地方〉ということで一括りにするわけにはいかない、それぞれの地方に特有の事情の存在が大きく浮び上がり、共同研究においての新たな方向性を与えられた。例えば、畿内に隣接し、かつ、高野・熊野という地域を抱え込む南海道の、各地との交流も盛んな宗教的中心としての性格、河内源氏と平氏とのせめぎ合いの歴史の末に、鎌倉というもう一つの政治的中心となる都市を育くみ、また、京都と鎌倉という二つの焦点を持つ楕円形でイメージできる文化圏を形成し、それをつなぐ軸となっていった東海道、同じく東国でありながら、「征夷」「辺境」という点から、様々に強弱を繰

り返しながらも常に中央政府との緊張関係を保ちつつ、独自の発展を遂げた東山道。こうしたそれぞれの地域の独自性に注目することの必要性は、講演会を通して気づかされた点であり、以後、「鎌倉」や「辺境」といったモチーフに注目することとなった。さらに、そうした検討を経て取り組んだ西海道についても、流刑の地として辺境でもありつつ、一方で、外国への窓口としての重要性から日本全体の政治状況に大きな影響を与え続けてきたことの重要性が浮き彫りになった。こうした各〈地方〉の持つ特殊性・独自性を確認した上で、それらから帰納した総論として〈中央〉と〈地方〉の関わりを考えていく必要性を強く実感するに至った。

(3) 前項で指摘したような事情を踏まえつつ研究を進めた結果、多くの軍記作品を包括的にとらえ、縦断的、俯瞰的に眺めるなかで、軍記文学というジャンルの作品の特質を把握することの有効性、重要性が浮び上った。時には、考古学や歴史学での研究をも視野に入れつつ、鎌倉時代に至るまでの各地方の状況やそこで発展していった氏族の歴史を通して確認し、それが各作品の物語世界において、主題と関わりつつどのように描かれているのか、細かく検討することが極めて重要であった。さらに、そこから演繹的に各作品に戻ることで個別の作品の特質、著作意図などが抽出できることも確認した。

(4) 中世歌謡を専門とする姫野敦子、中世国語学を専攻する大学院生の宮本友子の加入によって、軍記文学の外の世界からの検討を加えることができた。同時代人による、それぞれの地方に対する知識、関心、流行などを知る上で大変有意義であった。軍記文学を育んだ時代、社会を、軍記文学作品の外側から眺めることの有効性・重要性を確認できた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計０件）

〔図書〕（計１件）
『軍記文学における〈中央〉と〈地方〉に関する多角的研究　研究成果報告書』
（平成 25 年 3 月 31 日　発行）

初期軍記における「婚姻」――〈中央〉と〈地方〉を考える視座として―…清水由美子…
源為朝における〈中央〉と〈地方〉〔一〕―半井本『保元物語』における〈為朝問題〉の考察―　…栃木孝惟…
延慶本平家物語における〈境界〉―鬼界島関連記事をめぐって―　…小番達…
平家序章における〈中央〉と〈地方〉の問題―源義親をめぐって― …高山利弘…
八帖本平家物語と地蔵院経蔵の行方―八帖本平家物語周辺の人々における東西交流（一）―　　…谷口耕一…
廻心房真空と安達氏三代―八帖本平家物語周辺の人々における東西交流（二）―　　…谷口耕一…

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
清水　由美子（SHIMIZU　YUMIKO）
　清泉女子大学文学部講師
　研究者番号：40424303
(2)研究分担者
栃木　孝惟　（TOCHIGI　YOSITADA）
　千葉大学名誉教授
　研究者番号：10008956
小番　達　　（KOTUGAI　TORU）
　名桜大学国際学群講師
　研究者番号：40424302
姫野　敦子　（HIMENO　ATSUKO）
　清泉女子大学文学部講師
　研究者番号：90334268
(3)連携研究者
高山　利弘　（TAKAYAMA　TOSHIHIRO）
　群馬大学社会情報学部教授
　研究者番号：70197218